

第十五話 『のら』川を渡る

その週末『のら』は『マナ』に川へ行こうと誘った。『のら』は川の向こうに見えた花畑に行きたいようである。しかしその為には川を渡らなければいけなく、とても泳いで渡れるとは思えなかった。

『のら』に無理やり連れられ、『マナ』は渋々川辺にやって来た。『マナ』は川をじっと見ながら、『のら』に向かって「無理だよ」と言った。『のら』は「大丈夫」と言って腹を叩いた。そして川に向かって「カッピー」と叫んだ。すると川の水が持ち上がり、大きな生き物が出てきた。それは先日家で『マナ』が弾き飛ばされた生き物である。その生き物はこちらに近づいてきて、「かぴ」と言った。『のら』は川の向こう岸を指し「かぴ」と言う。するとその生き物は「かぴ」と言い返して腹を叩いた。その生き物は四つん這いになった。『のら』はさすがその上に乗ると、その生き物はのそのそと水の中に入って行った。そうしてプカプカ浮かぶようにして、ゆっくりと向こう岸に進んで行った。

向こう岸に着いた『のら』は、『マナ』にも『カッピー』に乗ってこちら岸に来るようにと指を差した。『マナ』は嫌々ではあったが、仕方なくカッピーに乗って川に入った。しかし大きい『マナ』はバランスを取るのが難しく、もう少しで川を渡り終えるというところで落ちてしまった。『マナ』は「助けてくれ」と手足をバタバタさせ、死にそうな声を上げた。すると『カッピー』が『マナ』を掴み上げ、「かぴ」と言って足元を指した。背の高い『マナ』は、実は川底に足が着いていたのだった。『のら』は笑いながら「かぴかぴ」と言って腹を叩いた。

